

午後3時3分再開

○議長（堀尾俊浩君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、12番柴山恭子議員の質問を許可します。12番柴山恭子議員。

（12番柴山恭子君登壇）

○12番（柴山恭子君） 平成27年小泉進次郎衆議院議員は、女性局の政策研究会で私は農政は素人です。これから勉強すると言われました。そして、北海道から沖縄まで、農業者との勉強会を繰り返し、農政についての問題提起がなされました。とても興味深い話がたくさんありました。そのとき、国産バナナの話もあったのです。外国産が当たり前のバナナのような農産物も、これからは国産がふえ、今までの当たり前が当たり前でなくなる、こういう取り組みに対して応援していきたいとも言われました。

先日、6月17日国産バナナのテレビ放映があり、樹液で完熟したバナナは、樹液が十分に含まれ、皮がとても薄くなり、ポリフェノールたっぷりの皮まで食べられるバナナとなり、血管年齢を下げるということでした。

今、我が朝倉市馬田でこのバナナ栽培が行われております。長さ48メートル、幅8メートル、高さ6メートルのハウスが2棟、試験のための6掛け7メートルの小さなハウスには、今8本のバナナが植えられています。ことし収穫できるとのことでした。皆様にもぜひ見学に行ってほしいと思います。バナナとはこういうふうになるそうです。

また、空いた農地にはハゼ苗を植えさせていただきました。私どもは、これまで荒廃するのではと思われる農地を、再生のためハゼを植えることを提案してきましたが、シカやイノシシにやられ、やっとなんか大きくなっていると思えば災害にやられてしまいました。少し心が折れそうにもなりました。そしてやっとなんか今、植えた苗から新芽が出始めました。このハゼの木をなんとしても低木仕立てとし、大きな労力なしで収穫できるよう、実験田となればと思っております。反当幾らの収入になるのか、ハゼろうとして出荷することができるか、問題は山積みです。

そうして、もう一つ、ギンバイカ、マートルを植えることにしました。これがかわいらしいマートルです。マートルは花がとてもかわいらしく、結婚式のブーケにも使われます。幸せの木ともお祝いの木とも言われております。お茶のように栽培し、茶摘みのようにして収穫すれば、収穫した葉からアロマオイルが製造できます。100%国産のエッセンシャルオイルはとても貴重です。香りに光を当てたまちおこしができればと思います。

この地がいろとりどりに高揚したハゼモミジやバナナ、かわいらしいギンレイカを見に来てほしい。今はとっても甘いトウモロコシやなすびがあり、里イモも植えられています。見学者には朝倉の美味しい野菜を持ち帰り、食べてほしいそうです。

まちおこしのためにも、この事業の成功を思わずにはいられないのです。私、今後とも多くのことに興味を持ちながら、活動をしていきたいと思っております。

本日、質問席より防災拠点整備、地域福祉活動計画についての質問をいたします。よろ

しくお願いいたします。

(12番柴山恭子君降壇)

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） 防災拠点整備について、お尋ねいたします。

久喜宮地区の防災拠点施設とは、どのような施設なのかお尋ねをいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 都市建設部長。

○都市建設部長（日野浩幸君） 久喜宮地域に防災拠点をということで、今計画を現場という形で、都市建設部、都市計画課のほうで進めておりますが、久喜宮小学校の跡地活用ということで、将来的な活用方法に検討した経過が、地域コミュニティの中で跡地活用委員会の中でございます。

今回の被災を受けまして、小学校跡地にもともと小学校の体育館がございしますが、その体育館を活用し、そこに併設する形で避難者の対応、それから炊き出し等もできるような、そういった地域と一体となった災害対応ができる拠点施設ということで、建物とそれから広場、そういったものを備えた施設で今、準備を進めているところでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） そうすれば、避難地としても、避難所としても、備蓄倉庫としても、救援物資の集積所としても、応急復旧活動の拠点としても、幅広く使えるような防災施設ということでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 都市建設部長。

○都市建設部長（日野浩幸君） 今、おっしゃいましたように備蓄倉庫、そういったものも含めた形で幅広く防災拠点としての活躍を望むものでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） お尋ねいたします。前回の佐々木議員の甘木地域に防災機能を備えたセンターを早急に建設する必要があるという質問に、建設を凍結している十文字公園内体育施設が考えられるが、財政状況を勘案して、順次方針を示していきたいと答弁されました。覚えてらっしゃいますでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） その分については、確認をとっておるところでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） それでは、答弁にあります、順次方針を示すとは、どのような方針として検討されておりますでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） まだ、市としてはその方針については出すことになっておりません。ですから、その分についてはまだ返答のことができませんので、御了承願います。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） いつまでも検討を続け、検討をしていたのであれば、こういうことが出ましたということもあると思いますが、全く検討していないということでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 柴山議員が言われますように、十文字公園整備含めて、いろんな大型事業について、まだ言及することができません。いろんなこと、将来的な財政のことも踏まえた上で、慎重に判断をするということでございますし、またその分については、ここで答えることはまだ差し控えさせていただきます。お願いします。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） 当然、財政状況を勘案してとありますので、大型事業のようなことは思ってもおりませんが、それでも市としては、全く考えていなかったということでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 全く考えていなかったということは、全体の事業費、事業というところの中での大型事業を指すものでしょうか。十文字公園を指すのでしょうか。失礼いたします。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） 私はそんなことは言っておりません。十文字公園跡地の活用だとか、どことかの活用だとか、そういうことに対して防災拠点の施設はどうなっているのかというのではなくて、答弁に順次方針を示していきたいとありますので、お金がないからこういうことまではできるけど、もうできませんというような話し合いが行われていてもよいのではないかと思われませんが。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 協議については、当然して、担当レベルからずっとやっているところでございますが、まだまだ申しわけありません。協議を続けていかなければならないのが実情でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） いいですか。体育館だけが防災拠点ではありません。それとも、行政としては甘木地域に防災拠点は必要ないと思われていますか。人口は多いが十分に防災拠点として確保をできていると思われていますか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 旧甘木地域におかれましては、世帯数から人口からというのから見て、当然あります。かといって、そこに防災拠点が不要とか、そういう考え方はまだ持ち合わせておりません。当然、災害、いろんなことで市民を守るというのは大前提にありますので、決して行政側のほうから防災拠点とかそういうのを、必要ないという表現には至らないと思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） もうちょっと私にわかりやすく説明してもらえません。防災拠点は必要ないと思っていますということですか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 防災拠点が必要でないという表現ではございまして、市民を守るためには、そういう防災的な機能は必要でありましょうけど、それを設置するとか、そういうところまで、まだ至っておりませんという話でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） それでは、必要だとは思われていますか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 公園、都市防災機能を備えた公園という捉え方の中での考え方というところで考えてよろしいのでしょうか。

そうすると当然、朝倉市面積も広うございますし、いろんなところで近年の災害等もございまして、特にうちは九州北部豪雨を経験しておりますし、そういうときにおいては、やはり特にうちの災害の状況としましては、長期的な避難というのも視野に入れながら、そういう確保も今後は喫緊の課題ということで考えていかなければならないということで、把握をしております。以上です。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） 必要だとは思われているんですね、じゃあ。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 防災から、もしくは災害から市民を守るということの立場で当然、行政おりますものですから、それでそういう防災拠点とか、いろんな関係が当然、必要ないという表現は言えないと思います。ただし、それが必要だということで、じゃあやりましょうという話にも、まだ今は至っていないと思います。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） 私そんなこと言ってません。必要と思われていますかと聞いただけです。できますかとは決して聞いておりませんが。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 防災拠点という考え方は、当然必要と思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） お尋ねします。6月1日広報あさくら、防災特集です。

いざというとき、あなたはどう行動しますかと表にでかか載ってる。いざというときあなたはどう行動しますか。求められる家庭、地域の取り組みが必要。命を守るための避難を早めにとあります。市民には、何を最も伝えたいと思ってるでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） その広報紙と一緒に全戸配布で、全コミュニティの防災自主マップも同封させて、エリアのマップを同封させていただいておりました。

まずは、自分たちが今住んでいる場所がどういう災害の影響を受ける場所かと、あるいは自分たちの一番近くある指定避難所、あるいは自主避難所がどこにあるかというのを、まずそのことをもって、いざ市のほうから大雨に伴うところの災害のいろんな情報が出たときには、まず自助の動きをとっていただくような情報とって、全戸配分の中で周知をしたところでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） 次の質問に答えやすいように答弁をしていただきました。

立石の避難場所です。自主防災マップ、これは立石の自主防災マップでもあり、堤地区だけに限定したものです。各地区、頓田、柿添、そういうふうはこのマップは地域地域でつくられましたので、非常にわかりやすいと思います。この中に避難地域、ここ、ここ、ここ、いいですか。

甘木中学校、避難地域ね。立石コミュニティ、立石小学校です。今、地図をお見せしましたが、私どもは、例えば柿原から逃げていくときに全て歩きでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 先ほど紹介がありました、堤地区については3カ所の指定避難所ということで、今言いますように、柿原地区のほうから、じゃあその指定避難所、一番行くとしたとしても、当然、そこについては各自の車両を使うのではないかとということで把握せざるを得ません。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） 私には、車に非常な思い出があります。まず、震災の折、津波の折、あそこにボランティアに行きましたときに、あそのの皆様が、恭子ちゃん油が半分以下になったら、必ず満タンにしておいたほうがいいよ。いざというときに、油が補充できないから、常日頃から車の油は満タンにしておきなさいというのが1点。

もう一つは、熊本地震でのボランティア活動に行ったとき、グランメッセ熊本や公園に多くの人たちが車で避難し、生活してありました。とても避難場所だけでは対応できず、自らの車を安全なところにやって避難し、生活をしているということでした。そこでお話を聞いたときに、トイレと水道があれば車でも何とかできるという話を聞きました。車の中で避難を考えると、物資はその避難場所に行けばいただけるから、とりあえずは車が止められる、そういうところに行って、自分たちは避難をしているということでした。

お尋ねします。基幹的広域防災拠点の必要性をどう思われますか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 議員が言われます、先ほどから東日本大震災の例、それから平成28年の熊本地震の関係で、特に地震関係については、いつどこでという、また余震が

あるということで、皆さん屋内におられても不安ということで、おのずから屋外の車両の中で過ごされるという、そして物資等については行っていただくということ。

聞くとところによりますと、熊本地震の場合については、そういうふうで屋外での車両の中での区分の中で、エコノミー症候群の例も数多かったという話も聞いております。

これを打ち返しまして朝倉市、朝倉市の一番災害の発生の可能性のリスクというのは、今現在、梅雨末期から台風による風水害であります。現在、最優先として市として対応すべきところについては、屋外の一時的、今避難地よりも、一定期間避難生活ができる屋内の指定避難所の確保や拡大、その機能向上を優先すべきという考え方の中で、今現在つくっております。その考えで、まずそういう指定避難所、あるいは長期的に災害が発生した後には、そういう場所の確保を優先しますということの中の動きでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） ちょっと、私の質問が悪かったのか。私は何と言ったかと言いますと、基幹的広域防災拠点が必要だと思われませんかとお尋ねいたしました。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 済みません。私、立場上、認識しなければなりませんが、基幹的防災の関係については情報を持ち合わせておりません。申しわけございません。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） そうでしょう。私も調べて初めてわかったことなんだから。

やはり、部長が言われるように、朝倉市は雨風、それから今度の災害でもあるように外で過ごすことは非常に難しいと思います。しかし、多くの人がこの前の大ホールでも入りきれなかったように、多くの人が一掃にどこかに避難するということは、非常に難しいことがあると思いますので、そのときにこの基幹的というのを調べてみました。

これは、定義によれば、被災時に国及び地方公共団体の協力のもと、広域的な防災活動を拠点として機能するだけでなく、平常時には都市のオアシスとして人々が集う魅力的な都市空間として有効に利活用をされるものとあります。

何が言いたかったかということ、財政困難の折です。体育館、施設整備は今後の課題としなければなりませんので、この広域防災拠点の整備が必要だと考えるのです。ここに何としても、車でも何でもいいから避難をする。30年前でした、大型台風は。あれから大型台風はきません。そして今度の大雨です。亡くなった父はよくこう言っていました。70年80年に1度来たこの大型台風だから、俺が活着ている間はもう来んだろう。しかし、大雨は2度も経験しました。でも、最後に残るのは地震が残っております。

今度の新潟の地震。日本海には地震はないと言われておりました。日本海で6強の地震があったということは、この朝倉市にいつ大型の地震がおそってくるかはわからないのです。地震がおそってくれば、熊本の益城町のように多くの人々が被災します。そのとき、私たちはどうやって避難をするのか、全体的な考えもいると思いますが、どう思われますで

しょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 私どものほうが風水害をいつも頭におった傾向がありました。確かに平成17年3月には福岡西方沖地震もございましたし、直近であれば平成28年熊本地震の余震うちのほうにもありましたし、ただし、地震の分についてが含めたところでのそういう考え方というのは今、当然やらなければならないいんでしょうけど、まずは風水害、台風等の出水期時期の対応に今、邁進しているのが現状でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） それは正しいと思います。とにかく今、やらなければならないことが山積みしている中で、次のことは考えられないというのがあるでしょうけれど、危機管理、原子力発電所が津波でやられたとき、原子力発電は安全です安全ですと、いつもいつもテレビで言うておりました。まるで、原子力発電所は安全かのように私たちは思っておりました。だから、私たちも地震を、熊本も言われました、熊本は地震が来ないところだった、びっくりしたと。私たちは常にあらゆる方向からの災害を考えておかなければならないのではないかと考えますが、いかがでしょう。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） そのとおりでございます。災害を経験した自治体として、市民としては当然、いろんな災害というのは想定されますので、それはそのとおりだと認識しております。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） そこでですよ。基幹的広域防災拠点の整備を必要とするんです。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 私どものほうの勉強不足もありまして、先ほど議員のほうからこの施設の特性についていただきました。我々もこのことについて検討というか、もうちょっと勉強させてください。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） 勉強をしなくても、そういう考え方でやっていきたいと、一言言うていただければいいんですが。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） そこまでしか言えないのが、当然ありましようけど、言及はできません。御理解ください。お願いいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） 頑張っしてほしいと思います。非常に財政が困難な折に、あれもしてくれ、これもしてくれというのも、私自身、非常に苦しいのですが、やはり全体のことを考えながら、これから先、朝倉市はどう向かっていくか、災害に対してどういう対応を

していくかというのは、きちんと考えておかなければならないことだと思いますので、どうかもう一回、頑張りますと言って。

○議長（堀尾俊浩君） 副市長。

○副市長（中野信哉君） 議員が御指摘されましたとおり、財政に非常に制約がある中で、やっぱり集中と選択もありますし、優先順位、これを間違えてはならないというふうに考えております。その点におきましては、先ほど総務部長が申し上げたとおり、風水害に対する対策、まだまだ山積でございます。これをとにかく急いでやっていく。その中で、朝倉市としてはほかの、やはり災害選べないわけですので、ほかの災害も視野に入れ、そういったことも災害に強い町にならなければならないというふうに思っております。これはやっぱり、順序を立てて、しっかり研究、検討してまいらなければならないというふうに考えます。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） そうですね。私どもは行政だけに頼るのではなく、立石コミュニティといたしましては、各隣組単位に避難場所を探しながら、そこに何を置いておけばいいのか。例えば堤のうちあたりの隣組でしたら、うちの3階の倉庫に発電機とチンとって食べられる米と水を準備しております。そういうふうに、各企業にもいざというときのための防災の準備をしていただきたい。これは市だけに押し付けるものではありません。各隣組、各コミュニティ、それぞれの力をもって、この災害に対応していかなければならないと思っておりますので、そういうところを発信していく、俺たちも頑張るので、皆さんもどうか頑張ってくださいというようなことを発信していく、してくださいしてくださいでは、とてもできないでしょう。何とかしてみんなで力を合わせましょう。市長、どうでしょう。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） 柴山議員が今、おっしゃいましたように、ことしロータリークラブだったと思いますけれども、被害を受けた朝倉の地元のロータリーとして、これは久留米地区のエリアだったと思いますけれども、まさしく議員が言われましたように、ロータリークラブとしてそれぞれの雇用を持つ企業として、商店として、自らの会社をしっかりと危機管理を常に持って守っていくと。同時に、地域に根ざしておられますので、地域の防災、あるいは災害時の役割をロータリー案ということで言うておられましたけれども、そういうことがございました。

まさしく行政といたしまして、地域の皆さん方に自らの命を自らで守ってくださいと。地域にあつては要支援者の皆さん方も一緒になって、日ごろから状況をつかんで、そしてお願いしますということを言わせていただいております。当然のことながら、行政として一番、市民の生命、あるいは財産、それから生活を守る役割を行政持っておりますので、議員が今、言っていたように、我々としてもこれから先、さらに市民の皆さん方に



お願いをすると。市は一生懸命やっていますからという力強いある意味でのメッセージをいたる場所で、いたるときに発信をさせていただきたいというふうに思います。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） よろしくお願いいいたします。私たちができることは非常に限りがあります。全体的なことはどうしても行政の力を借りなければできないと思いますので、よろしくお願いいいたします。

それでは、地域福祉活動計画についてお尋ねいたします。

地域福祉活動計画は、地域の支援体制を築く公助連携とあり、社協から出されていますが、何をもとにして出されたものですか。

○議長（堀尾俊浩君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（田中美由紀君） 朝倉社会福祉協議会が本年3月に、第2期朝倉市地域福祉活動計画を策定されておりますが、これは策定中に市との連携等はありませんでした。したがって、社会福祉協議会が地区社協に聞き取りをしながら、社会福祉協議会で独自に策定されたものと理解しております。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） それはおかしいですね。朝倉市地域福祉計画に基づく自助、公助と共助の連携を図るための具体的取組計画とこの中には書いてありましたが。

○議長（堀尾俊浩君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（田中美由紀君） 現在、本年3月に計画されたものが第2期の計画となっております。第1期につきましては、朝倉市の総合計画、それから市でつくっております地域福祉計画に基づいて策定をされたところでございますが、その後は継続版、それから第2期の計画につきましては、社会福祉協議会のほうで独自に策定されております。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） 朝倉市地域福祉活動計画継続版は、市はかかわっていないということですか。

○議長（堀尾俊浩君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（田中美由紀君） 朝倉市の地域福祉計画が平成21年度から平成25年度までで、その後が計画しておりません。したがって、継続版、第2期につきましては、社会福祉協議会が独自に策定をされたものでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（田中美由紀君） 済いません。市が地域福祉計画を作成いたしておりますのは、平成20年度から平成24年度まででございます。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） それではお尋ねいたしますが、この地域福祉計画活動については、私たちはまるっきり関与しておりませんので、この計画については何も存じませんし、朝

倉市としても何も考えておりませんということでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（田中美由紀君） 計画の整合性はございませんけれども、第2期朝倉市地域福祉活動計画の策定につきましては、これまで社会福祉協議会に交付しておりますふれあいのまちづくり事業推進費補助金を通じまして、ボランティア、コーディネーターの設置や、小地域ネットワーク地区社協助成等を行っております、地域ボランティア活動を支援いたしております。その中で策定されておりますので、市と関係がないというものではないというふうに思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） こういう言い方をするとなんですが、あなたたちはあなたたちで頑張りなさい、私たちは私たちで、私たちのやれることをやりましょうというふうに聞こえてきますが、同じような福祉活動をするのであれば、社協もそれから福祉事務所もその他行政も一緒になって朝倉市の住民の福祉のために力を尽くさなければならないのではないですか。

○議長（堀尾俊浩君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（田中美由紀君） 議員がおっしゃいますとおり、地域福祉のいろんな地区の課題とか取り組みというものは、やっぱり市と社会福祉協議会、それから地区社協と連携をして取り組んでいかないといけないものでございますので、関係がないということではございませんで、こういう課題をまとめられておりますので、今後は市、それから社会福祉協議会、地区社協と連携しながら取り組んでいかないといけないというふうに思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） 今回、この質問をいたしましたのは、コミュニティにおきまして、どう見ても市と社協の連携がないような気がいたしました。今度の聞きとりの際にも、その活動計画はうちとしては関与しておりませんので、質問には答えづらいというような答えもいただきましたので、果たしてどうなんだろうかと考えておりましたがどうですか。

○議長（堀尾俊浩君） 保健福祉事務所長。

○保健福祉事務所長（平田龍次君） 今回のこの社会福祉協議会が作成いたしました地域福祉活動計画の作成そのものにはかかわってはおりませんが、当然、社会福祉協議会の理事や評議員として私どももかかわっておりますし、その運営については補助などもしておりますので、当然、連携をしながら取り組んでいくものというふうに考えております。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） そうでなくてはなりません。

じゃあお尋ねをします。各地域における事業、活動の把握はどうされていますでしょうか

か。

○議長（堀尾俊浩君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（田中美由紀君） 各地区におけます課題、問題点につきましては、この計画書の中に抱える課題等として記載されておりますので承知をしているところでございます。

市といたしましても、これらの地域課題の解決は地域福祉推進に重要であると考えておりまして、連携しながら取り組んでいきたいというふうに思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） 具体的な課題や問題点は何だと思われませんか。

○議長（堀尾俊浩君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（田中美由紀君） 全体的に見まして、各地区の事業、活動を支えますボランティアを含む参加者や協力者の確保について、各地区に多く課題や問題点があるというふうに考えております。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） 私もこの中から、そう読みとりました。

この課題や問題点をじっくり、ちょっと市長、副市長、そこの部長たちにお聞きしますが、この活動計画たるもの読まれました、御存じでした、私が一般質問する前に。

○議長（堀尾俊浩君） 副市長。

○副市長（中野信哉君） 議員の質問をきっかけに初めて知りました。そのときに拝見して勉強いたしました。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） 今度の一般質問の目的はそこにありました。せつかくこの1冊、2冊の活動計画が出されているものが、市の部長級の誰にも目にとまらず、葬り去られてしまうのかと非常に不安でした。よかったです。読んでいただいただけでも。

そうすると、地域の課題や問題点は一番そこから上がってきた問題です。これが一番大事なことだと思われませんか。これをなんとしても政策に生かしていただければならない。だからこそ読んでほしかった。地域の皆様が何を考えているのかをちょっと読まれただけではいけませんから、政策までには反映できないと思いますので、ボランティア活動について総務部長にお尋ねいたします。

ボランティア活動はこのまま続けていかれると思いますか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） ボランティアをする側のほうですね。受ける側のほうについても、自分たちも経験がありますが、ある程度、地域の中でそれに呼びかける側、あるいは消防団のOBとか、あるいは現役の消防団とか、地域のまとまりがある若い者を含めたところでのボランティアの部分の声かけがスムーズな地域についてはできましようけど、

なかなかそこあたりがちょっと薄くなっているというのもございましょうし、この活動計画の中にもありますように、ボランティア活動への参加者の呼びかけがなかなか難しいという記述がありますものですから、私もそんなふうに認識したところでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） 私は甘木市時代、ボランティアが大好きでした。特に市民祭りには、300人ほどのボランティアを引き連れているんなことをやってきました。しかし、ここにきてボランティアのあり方が全体的に少し変わっているような気がします。

あの折は、同じ釜の飯を食うことでした。何かを始める前には、みんなが集まりやろうじゃないかという力を合わせる。途中には、それぞれの小さなチームに分かれて、ああしたらいいな、こうしたらいいなと話しかける。今、ボランティアにとって、宴会力が欠如しているのではないかと私は思います。飲み食いが非常に戒められる今の時代です。しかし、人の心を動かすために何か考えていく必要があると私は考えます。

例えば、交通費の助成だとか、今までボランティアは全て自費で対応しますが、その中にちょっとしたお弁当代などを出し、それを集めて一つの何かチームをつくるようなことができたかと思っておりますし、先日、立石通学合宿1期生がボランティアに参加してくれました。

さっき、教育長が言われましたでしょうか。小さいときからの教育とか、小さいときからのそういうこと。小さいときから福祉教育の充実の必要性を感じます。子どもたちは立石の通学合宿で皆さんに朝御飯のつくり方、夕御飯のつくり方、お風呂の入り方、いろいろなことを学習します。そして大学生となったときに、立石にボランティアとして入ってくれました。これは何かヒントにはなりませんか。

○議長（堀尾俊浩君） 総務部長。

○総務部長（石井清治君） 通学合宿に参加した子どもが大きくなって、大学になって今度は恩返しをします。そういう取り組みというのは、まさに共感が持てるところでございますし、当然、そういう子どもたちというか、そういう生徒がふえることが、将来のボランティアの人数の確保になるのではなかろうかということで、話を聞かせていただきました。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） そう、みんな一緒に御飯を食べたんです。朝御飯、昼は給食、そして夕御飯はみんなで作って食べました。この活動の経験が大きくなって再びそういうことに手を貸そうというボランティア精神につながってきているんだと私は思っておりますので、何とか、飲み食いはいかんと頭から決めつけるのではなくて、どうしたらボランティア活動が活発にできるかを考えていただきたいと思います。

地域福祉活動は住民主体という名のもと、地域だけにおんぶに抱っこになってしまっただけではいけないと思います。地域から上がってきた問題点など、社協とともに取り組み、政策

に生かす必要があると考えます。答弁をお願いいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（田中美由紀君） 先ほど議員がおっしゃいましたように、地域主体と言いながら、やっぱり地域だけに任せるのは大変なことだと思っております。例えば、私の部局の保健福祉部では生活体制整備事業というのを高齢者の、地域みんなで支え合う地域づくりということで、モデル地区を各地区に1カ所ずつつくっていただくようにやっておりますけれども、そこにもコーディネーター、それから市の職員が入りまして、地域の土台の支え合いの仕組みづくりを行っているところでございます。

そういう、高齢者の部門だけで今、ちょっとその生活体制整備事業をやっておりますけれども、そういうものから始めていきまして、市と、それからそこには社協も入っていただいております。そういうところから、地域力をつけながら、地域みんなで支え合う仕組みづくり、地域包括ケアシステムというのを国が構築するように進めておりますので、みんなで協力しながら連携して、体制づくりをやっていきたいというふうに思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員。

○12番（柴山恭子君） よろしくをお願いいたします。今後は頑張りどころです。一つずつ始めて、そしてすばらしい朝倉市になればと思っております。きょうはありがとうございました。これにて一般質問を終わらせていただきます。

○議長（堀尾俊浩君） 12番柴山恭子議員の質問が終わりました。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は、あす20日午前10時から行い、一般質問を続行いたします。

本日は、これにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後3時56分散会